

保護者の皆様へ

練馬区立関町北小学校長 吉川文章

令和4年度 全国学力学習状況調査結果の報告と考察、今後の取組について

日頃から本校の教育活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。4月に実施しました「令和3年度全国学力学習状況調査」の結果が文部科学省から送られてまいりました。下記の通り調査結果及び分析と考察、今後の取組についてお伝えをいたします。

記

1 教科の調査結果(国語・算数・理科) ※数値は平均正答率です。

【国語】

本校	68
東京都(公立)	69
全国(公立)	65.6

【算数】

本校	66
東京都(公立)	67
全国(公立)	63.2

【理科】

本校	64
東京都(公立)	65
全国(公立)	63.3

今年度は3年に一度の理科の調査が加わりました。3教科とも全国の平均を上回り、東京都の平均に近い正答率となりました。ちなみに、東京都は国語が全国3位(1位の秋田が71点)、算数が全国2位(1位の石川が69点)、理科が全国7位(1位の秋田が71点)の結果でした。次に項目別の結果についてお伝えいたします。

【国語 項目別】

分類		区分	本校	東京都(公立)	全国(公立)
		全体	68	69	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.7	71.4	69.0
		我が国の言語文化に関する事項	79.2	75.5	77.9
	思考力, 判断力, 表現力等	話すこと・聞くこと	68.3	69.1	66.2
		書くこと	46.5	51.3	48.5
		読むこと	72.8	72.1	66.6
評価の観点	知識・技能	72.1	72.0	70.5	
	思考・判断・表現	65.1	66.2	62.0	

若干の項目による差はありますが、全体的にはおおむね東京都の正答率と変わりません(1点の差)。書くことの数値の低さが気になるところであります。これは、「文章の書き出し」に着目して、適切な説明文を選ぶ設問です。冒頭の書き出し文ではなく、説明文全体に着目した児童が一定数いたことで数値が低くなりました。書く力が低いのではなく、模試の形式の問題に慣れていないことが主な原因と考えられます。

【算数 項目別】

分類		区分	本校	東京都(公立)	全国(公立)
		全体	66	67	63.2
学習指導要領の領域	数と計算		71.1	72.1	69.8
	図形		65.1	68.6	64.0
	変化と関係		57.7	57.6	51.3
	データの活用		74.6	72.4	68.7
評価の観点	知識・技能		71.6	72.4	68.2
	思考・判断・表現		59.5	60.5	56.7

学習指導要領の「変化と関係」「データの活用」は東京都を上回る正答率でした。「図形」の項目が低い正答率であることがわかります。例を示します。「コンピューターを使って作図(プラグラミング)」する「ひし形」に関する設問です。進む方向ではなくひし形自体の角度に着目してしまい誤答になった児童が一定数いました。プログラミング学習を計画的に行う現在の取り組みに加えて、このような形式の問題に慣れていくことも必要と捉えます。数ページに渡る図や文章の説明の中から解決に結びつくポイントをとらえる「読解力」や「問題解決力」を高めれば、正答率はさらに高まるであろうと考察される問題です。

【理科項目別】

分類	区分	本校	東京都（公立）	全国（公立）
全体		64	65	63.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	55.4	53.4	51.6
	「粒子」を柱とする領域	56.2	62.4	60.4
	「生命」を柱とする領域	78.6	77.4	75.0
	「地球」を柱とする領域	66.3	67.7	64.6
評価の観点	知識・技能	58.7	63.6	62.5
	思考・判断・表現	67.3	66.5	63.7

知識・技能、粒子に関する領域に関する項目が都や全国の数字を下回っています。正答率が明らかに低かった問題は「メスシリンダー」の名称を問う内容でした。「メスシリンダーの扱い方」を問う次の設問の正答率は高い数値でしたので大きな課題とは考えておりません。器具の名称を覚えることは今後も引き続き指導してまいります。むしろ全体的には全国や都のレベルを上回っている結果と前向きに捉えています。特に「エネルギー」「生命」の領域、「思考・判断・表現」の観点では一定の成果が現れたと捉えます。

2 児童意識調査の結果

下の項目は全て国や東京都の平均を大きく上回った設問です。

- 早寝・早起き、朝ご飯に関する項目(朝食を摂っていますか、同じくらいの時刻に寝て(起きて)いますか)
- 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか
- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか
- 自分にはよいところがあると思いますか。先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか
- 人が困っているときは、進んで助けていますか
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 学校に行くのは楽しいと思いますか
- 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）
- 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- 友達と協力するのは楽しいと思いますか
- 5年生までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか
- 5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか
- 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか
- 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか
- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか
- 教科の勉強は好きですか（国語、算数、理科ともに）
- 授業の内容はよくわかりますか（同上）
- 授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか（同上）

3 調査結果の分析と考察及び今後のと取組について

今までの結果との比較も気になるのですが、冒頭の調査結果にもありますように、都の数値(全国の順位等)は毎年異なりますし1回の調査のみで本校の学力全てが把握(6年生対象、2または3教科の調査)できるものではありません。また、前述の例(メスシリンダーの名称を問う設問)のように一つの設問の結果によって正答率も左右されます。年度ごとの結果に一喜一憂することなく、エビデンスデータから分析・考察された内容を本校の学力向上の根幹の取組をベースとしながら、「急ハンドルを切ることなく」反映をさせていくことが必要と考えています。

国語や理科の結果からは「知識・技能」、算数では「図形」の分野で値が全国よりも下回りましたが、そこに過度に力点を置いた指導の方向転換は行いません。本校が大切にしている「学習補充」や「習熟度別指導」をこれまで通り着実に進めてまいります。都の平均よりも高かった項目は、現在、本校がめざしている「学びに向かう力(メタ認知)」を高める授業実践によりさらに効果を上げるといふ仮説のもと「学力の向上」と「人格の完成」の必須のカリキュラムとしてさらに精度を高めてまいります。今後「学力選手権」の取組を新たに実施する予定であることを昨年度に触れましたが、コロナ禍の状況で実施に至りません。図や資料、タブレットを活用し時にはチームで協力して問題解決に楽しく能動的に取り組むプログラムです。本校に定着している「漢字検定」「算数検定」をさらに進化させる取り組みであるとともに、全国学力調査の問題形式にも寄り添うものです。今後、この調査が「コンピューターベーステスト(タブレットに入力するテスト)」に移行していく方向性にもタイアップできると捉えています。合い言葉は、「楽しくなければ勉強ではない」です。早ければ令和5年度での実施を模索しています。

こういった取組のベースとなる「生きる力の源」は、児童の「学ぶ意欲と人間力・道徳心の醸成」です。「児童意識調査」で高い項目の全てが、小学校期に身に付けてほしい「生活習慣」であり「生き方、考え方」であり「人間性」です。今回の児童意識調査結果そのものが、本調査の一番の成果の現れと捉えます。「先生は認めてくれている」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」「学校に行くのが楽しい」「友達と協力するのが楽しい」の設問は都や全国の数値を大きく上回り、肯定的評価がほぼ100%の数値でした。この項目は「一朝一夕」で培うことは出来ません。長年にわたり、関北の子供たちを「愛し子」と接し厳しく、温かく導いてくださる地域の皆様のおかげであり、保護者の皆様のご家庭での「躰け」や「愛情」をはじめとする知徳体のバランスの取れた家庭での教育力に他なりません。コロナ禍は続きますが、今後とも学校と家庭、地域が一体となって「チーム関北」として「愛し子を育む」取組を進めてまいりましょう。どうぞよろしく願いいたします。

※ 令和4年度の問題と解答は、本校ホームページの「文部科学省コーナー」に掲載しております。興味のある方はぜひご覧ください。